

▶青少年健康センターのさらなる発展を目指して 齋藤 友紀雄	1
▶支援の現場より寄付者の皆様へ感謝の言葉	2
▶年度別ご支援総額／ご支援のお願い	3
▶会費等報告	4
▶公益財団法人大阪コミュニティ財団 山口淑子友愛基金助成 「ひきこもり家族のライフプラン」講座と個別相談会 事業完了報告...	4
▶CENTER NEWS	4

青少年健康センターのさらなる発展を目指して —ご支援のお願い—

今年もあと僅かとなりましたが、皆様にはご清祥のことと拝察いたします。

歳末にあたり、ご支援を下さる皆様にお願ひ申し上げます。

青少年健康センターは、精神医学者故稲村博の呼びかけで、東大総長であった故平野龍一を会長に迎えるなど、多数の有力な賛同者を得て、1985年に創設されました。

当センターは、ひきこもりの若者たちの自立支援や自殺予防など、もっぱら青少年問題と取り組んでまいりましたが、私どもの活動は、当初前例のない活動として社会的にも高い評価を受けてまいりました。さらに2012年度からは、若年層の自殺の増加傾向を憂い、自殺予防電話相談「クリニック絆」を開設するなど、その時代の要請にこたえようとしてまいりました。

2014年には公益社団法人格を取得すると同時に、文京区・世田谷区から事業委託を受け、100名を越える若者たちをお預かりするなど、各方面からの多大な信頼をいただいております。しかしこの事業を支える人材を養成し、彼らに意欲をもってこの事業を担ってもらうために、さらなる財源を必要としております。

来る2020年、東京オリンピックが開催されるこの年に、当センターは創立35周年を迎えます。記念すべき節目に向けて、私どもはより一層の事業の充実を願っております。つきましては、本事業の必要性と事業運営上の困難をご理解いただき、何とぞ温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最近の事業案内など同封申し上げましたが、よろしくご理解いただければ幸いです。

新しい年を迎えるにあたり、皆様のご健康とお幸せをお祈り申し上げます。



公益社団法人青少年健康センター

齋藤 友紀雄

支援の現場より

寄付者の皆様へ感謝の言葉

安心できる居場所で、一緒に“〇〇しあえる”体験を

「茗荷谷クラブ」チーフ 井利 由利

青少年健康センター【茗荷谷クラブ】が設立されて、30年になります。これほど長く続けることができたのは、ひとえにこれまでかかわってくださった多くのメンバーの方々、そして保護者の方々のおかげと深く感謝いたします。

茗荷谷クラブは、若者像の変化や社会の変化を鑑み、この社会を見つめ、隔たらないよう柔軟にその都度、試行錯誤を重ねてきました。それでも、現場を何よりも大事に、常にメンバーの方々のニーズに応えることを第一とし、よりよいクラブを作ろうとひたすら頑張り、気がついた時には、経営の深刻な危機状況、人材確保の難しさに直面していました。そのような中でも、メンバーの方々の笑顔や、元気になっていく姿に励まされ、そして多くのご支援やご寄付をいただき、危機を乗り越えられたと思っています。ひきこもりの問題が国の若者支援施策の重要な位置を占め、行政の委託を受ける中、少しずつ経営も安定してきました。でも、何とかもって利用料を減額し、なおかつスタッフの生活の安定も図りたいというジレンマが今も続いています。

今年度、通常の活動にプラスされた「みやうが谷倶楽部」

活動において、自主的に集まったメンバーが中心となって茗荷谷クラブの寄付パンフレットを作成しました。この社会に対して“不安”を抱える若者たちこそ、私たちの現在に何が必要なのかを教えてくれるニーズマスターなのです。彼らの生きやすい世の中は誰にとっても生きやすい社会となります。そうしたご支援の呼びかけに多くの方がご寄付をくださいました。本当にありがとうございます。私たちスタッフ共々どれほど励まされたことでしょう！

現在、茗荷谷クラブには月々延べ約230の方が来てくださっています。皆と一緒に“〇〇しあえる”体験（「対等に、楽しく、自由に」が基本です）の費用として使わせていただいています。そして、安心できる居場所を目指します。自分らしく生きたいと誰もが望み、葛藤しています。その手段のひとつである中間的就労の開拓など、今後も頑張っていります。

引き続きご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

受話器の向こうのつらさや寂しさに寄り添って

自殺予防電話相談「クリニック絆」一同

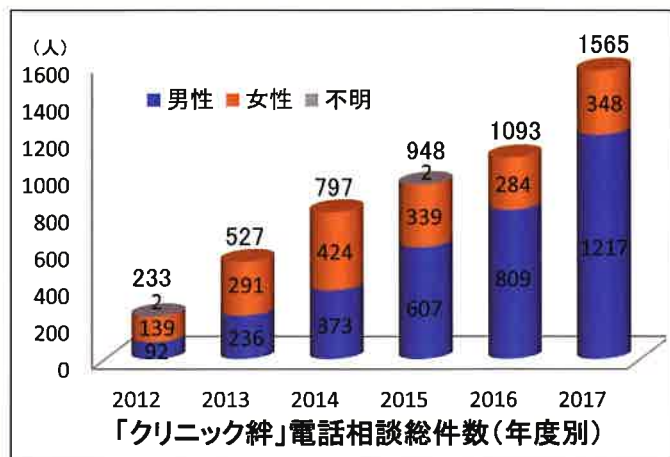
2012年3月に青少年健康センターの主旨に沿って「クリニック絆」が開設されました。当時、それまで年間3万人を超えていた自殺者数が減少傾向を見せ始めていたにもかかわらず、若者の自殺は高止まり状態のままでした。現在も若者（15～39歳）の死因第1位になっています。「クリニック絆」は自殺予防を目的として活動を開始しました。追い詰められた危機的状態の中で助けを求める人たちの声に耳を傾けようと相談員が月曜日から金曜日まで電話の前に座っています。

初年度の受信件数は年間233件でしたが、5年目を迎えた2016年度には1000件を超え、昨年度は1565件、今年度は半期終了時点で1080件となっています。相談者の抱える問題は「生き方」「孤独」「人間関係」「仕事」「病気」と多岐にわたり、インターネットを通して知名度も上がってきたように思われます。

「クリニック絆」の活動は、電話のかけ手のつらさや寂しさに寄り添おうというボランティア相談員の熱意によって進められています。そして、この電話相談活動が開設され継続するための資金は100%ご寄付によってまかなわれております。

皆様のご厚意に深く感謝しています。

これからも研修を積みながら、さまざまな相談者に応える電話相談を目指したいと考えています。今後とも応援をよろしくお願い申し上げます。



たくさんのご支援ありがとうございます

年度別ご支援総額(過去3年および本年度10月現在)



皆様への深い感謝とともに、
今後も皆様のご期待に応えるべく、
職員一同、誠心誠意、業務に
取り組んでまいります。

ご支援のお願い

青少年健康センターの活動は、皆様からお寄せいただきましたご支援によって支えられております。



青少年健康センターの活動全体を
継続的にご支援いただく方法です

会員には正会員と維持会員の2種類があり、正会員をもって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」における社員とします。

●正会員

当法人の目的に賛同して入会した個人・団体・法人で、社員総会において議決権が与えられます。会費は税制上の優遇措置の対象となりません。

【年会費】¥20,000(個人) ¥50,000(法人)

●維持会員

当法人の事業を賛助するために入会した個人・団体・法人で、社員総会における議決権はありません。会費は税制上の優遇措置の対象となります。

【年会費】¥10,000



青少年健康センターの活動を
支える基盤となります

●銀行振込

みずほ銀行 池袋支店(230) 普通 2179286
シヤ)セイショウネンケンコウセンター 宛までお
願ひします(¥1,000~)。

●口座振替

口座振替をご希望の方はお問い合わせください
(毎月 ¥2,000~)。

●クレジットカード

継続寄付と都度寄付をご用意しています(毎
月・今回のみ ¥500~)。

●Tポイント

「Yahoo!ネット募金」ではTポイントでご寄付
いただけます(1ポイント~)。

●ケータイ料金

「つながる募金」ではSoftBankのスマホ料金
と一緒に寄付金をお支払いいただけます(毎
月・今回のみ ¥100~)。

—当センターHPからお申し込みできます—



支援の現場を物品やボランティアとして
ご支援いただく方法です

●物品のご寄付

支援の現場では、多くの物品が必要です。新品の
物品はもちろん、読まなくなった本、使わなくな
ったボードゲームやテレビゲーム機、ボールやラケ
ット等のスポーツ用品がございましたら、ぜひご一
報ください。

●ボランティア活動への参加

私たちの活動を支援していただけるボランティアを
歓迎しています。青少年健康センターの活動に共
感でき、無理のない範囲で継続してボランティアに
関わっていただける方はお気軽にご連絡ください。
(作業例:講演会等イベントの運営、事務所内での
事務作業、チラシやパンフレットの配布による広
報活動支援)

●書き損じはがき・切手のご寄付

宛先や文面を間違えて出せなくなってしまっ
たり、眠っている年賀はがきや切手はごさいませ
んか? 「書き損じはがき」や「未使用はがき・切手」
を当センターまでお送りください。お送りいただき
ましたはがきや切手を活動費として活用させてい
ただきます。

ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります

※制度の詳細に関しましては、お近くの税務署にお問い合わせください。

ほかにも、ご遺言によるご寄付(遺贈)、相続財産のご寄付もお受けしております。ご支援に関してご不明な点等ございましたら、当センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

詳しくは青少年健康センターHPをご覧ください。
<http://skc-net.or.jp/support>



TEL:03-3947-7636
E-mail:info@skc-net.or.jp
〒112-0006 文京区小日向4-5-8 三軒町ビル102

会費・寄付金・助成金・補助金報告 (平成30年4月～10月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げてご報告いたします (敬称略)。

【正会員】 赤城 卓也 稲村 優子 今村 郁子 岩佐 壽夫 叶 香代 河野 治子 菊池 章 日下 忠文
 倉島 徹 倉本 英彦 齋藤 務 齋藤友紀雄 笹原信一郎 菅原 建 関川 俊男 高橋 清久 玉置 正和
 角田 忠之 中島 聡美 西村 秋生 日高 正枝 福田貴代子 眞下 テル 松岡太一郎 松崎 一葉 宮田タマ恵
 米沢 宏 計: **560,000円**

【維持会員】 伊藤 誠子 伊藤 三恵 榎本美津恵 遠藤幸代子 生出 美穂 小鹿 敏夫 大塚 慶子 小西 香里
 佐藤 悦子 鈴木 邦一 高野 龍子 戸村みどり 中村 弘 西村 四郎 原 佐恵子 福山なおり 藤井 幸子
 藤井 忠幸 丸山 邦子 三村 蓉子 柳下 弘 山本 弘夫 渡辺 彰子 渡部実知子 計: **240,000円**

【SW会員】 SW会費+維持会費 19名: **285,000円** SW会費のみ 101名: **1,010,000円**

【寄付・個人】 石崎 秀 石村 愛子 稲村 優子 小野田欣子 梶原 達也 金子寿美江 河合 翔太 木下八重子
 小松ひろみ 小山久美子 穴戸信次郎 神保 光代 島田 義範 鈴木 隆之 千葉 泰子 津曲 恵子 西浦加代子
 野澤徳陽子 橋本 進 波多野瑞穂 林 由理 廣瀬 令子 増田 太陽 松木 孝雄 丸山 邦子 森山 末美
 柳田 雅江 山本 弘夫 山下 正美 匿名 4名 計: **7,713,210円**

【寄付・団体】 ウエスト東京ユニオンチャーチ 北の丸カウンセリングセンター (公財) 毎日新聞東京社会事業団 **620,000円**

【助成金・補助金】 公益財団法人大阪コミュニティ財団 150,000円
 日本郵便株式会社 年賀寄付金配分事業 3,679,000円 計: **3,829,000円**

「ひきこもり家族のライフプラン」講座と個別相談会 事業完了報告

公益財団法人大阪コミュニティ財団 山口淑子友愛基金助成



2018年9月22日、講師にファイナンシャルプランナーの畠中雅子先生 (働けない子どものお金を考える会代表) をお招きし、「ひきこもり家族のライフプラン」講座を中央大学駿河台記念館にて実施いたしました。当法人では継続に行っている講座ですが、過去最多である71名の方々にご参加いただき、会場はほぼ満席となりました。また翌月の10月には、「ひきこもり家族のライフプラン」個別相談会を実施いたしました (6日から全4回)。こちらも定員16名を上回るお申し込みをいただきました。講座、個別相談会を通してライフプラン講座のニーズの高さを改めて再確認いたしました。

来年度も同様の事業を計画しており、ライフプラン事業の普及啓発と個別での対応の両面を継続して実施してまいりたいと考えております。今後ともご支援をお願いするとともに、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



CENTER NEWS

平成30年 (敬称略)

8月

- 茗荷谷クラブ 暑気払い 6日
- ひきこもりダイアログ講座 合宿研修 18～19日
講師: 齋藤 環 (精神科医) 於ワシントンホテル

9月

- クリニック絆 電話相談員研修 14日
- 茗荷谷クラブ新企画 女子会 10日
- 基礎講座 後期 19日から全5回
講師: 藤堂 宗継

10月

- 「ひきこもり家族のライフプラン」個別相談会 6日から全4回
- クリニック絆 電話相談員研修 16日
講師: 谷口 万穂
- ひきこもりダイアログ講座 20日
講師: 齋藤 環 於中央大学駿河台記念館
- 文京区ひきこもり等自立支援事業講演会 「ひきこもる気持ち・家族の思い」 20日
講師: 春日 武彦 (精神科医) 於文京区民センター
- 茗荷谷クラブ泊旅行 (箱根) 26～27日